

デジタル教科書指導案／地理的分野

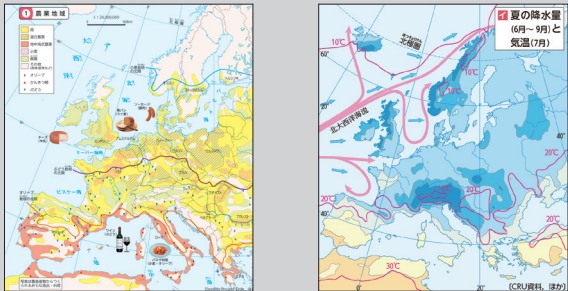
1. 題材 p.74-75 ヨーロッパの農業と EU の影響

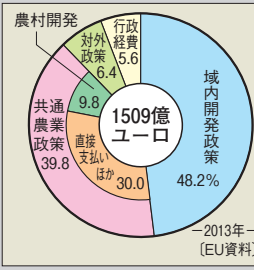
2. 目標 (1) ヨーロッパ州の農業の地域差を理解し、食料自給率が高い理由を考察できる。
(2) EU の取り組みがヨーロッパ州の農業にもたらした影響を考えることができる。

3. 章・節の評価規準例につながる指導のポイント

評価との関連	指導のポイント
知識・技能	・ヨーロッパ州の農業の特色や地域差を、自然環境と関連させて理解している。
思考・判断・表現	・EU がヨーロッパ州の農業にもたらす影響について考え、文章などでまとめて表現している。
主体的に学習に取り組む態度	・ヨーロッパ州の農業について EU との関係に関心を持ち、積極的に理解を深め考察している。

4. 指導過程

	学習内容・学習活動	資料・発問	留意点(○)・指導のポイント(◆)
導入	1. ヨーロッパ州の食に関する写真を題材にし、本時の課題をつかむ。	 p.74 1～3	○ ヨーロッパ州の国々の名物料理の写真を題材にし、地域ごとに食材が異なることに気付かせながら、本時への導入を図る。
	2. ヨーロッパの食文化が多様な理由を考えながら、学習課題への見通しを持つ。	ヨーロッパの国々では、どのようなものが食べられているのだろうか。 なぜヨーロッパの食文化は多様なのだろうか。	○ 「学習前の予想」へ記入させ、本時の学習展開の見通しを持たせる。
展開	学習課題：ヨーロッパの農業には、地域によってどのような特色があり、EU による統合によって、どのような変化が生じたのだろうか。		
	3. ヨーロッパの多様な食文化を育んできた農業の特色を理解する。 (1) 地域による違いがある理由	 地図帳 p.51 ① 地図帳 p.51 ②	○ 地域によって農業が異なる理由を考えさせる。 ◆ 地域によってさまざまな気候がみられるヨーロッパでは、それぞれの地域の自然環境を生かした農業が行われていることに気付かせる。
		農業形態の違いの理由を考えてみよう。	

展開	(2) 混合農業  ヨーロッパの混合農業 p.75   「ヨーロッパの混合農業」 ヨーロッパではどのような農業を行っているのだろうか。 <table><thead><tr><th></th><th>小麦</th><th>いも類</th><th>野菜類</th><th>果実類</th><th>肉類</th><th>牛乳製品</th></tr></thead><tbody><tr><td>イギリス</td><td>82</td><td>75</td><td>38</td><td>5</td><td>69</td><td>81</td></tr><tr><td>オランダ</td><td>27</td><td>221</td><td>284</td><td>22</td><td>176</td><td>224</td></tr><tr><td>ドイツ</td><td>152</td><td>117</td><td>40</td><td>25</td><td>114</td><td>123</td></tr><tr><td>フランス</td><td>190</td><td>116</td><td>73</td><td>57</td><td>98</td><td>123</td></tr><tr><td>イタリア</td><td>66</td><td>45</td><td>141</td><td>106</td><td>79</td><td>68</td></tr><tr><td>スペイン</td><td>72</td><td>60</td><td>183</td><td>135</td><td>125</td><td>76</td></tr><tr><td>アメリカ合衆国</td><td>170</td><td>96</td><td>90</td><td>74</td><td>116</td><td>104</td></tr><tr><td>日本</td><td>12</td><td>73</td><td>77</td><td>38</td><td>51</td><td>59</td></tr></tbody></table> 自給率 (%) ■ 120以上 ■ 50~100 ■ 100~120 ■ 50未満 ※日本のみ2018年、ほかは2013年の自給率です。 p.75  ヨーロッパの国々と日本の農業の違いを読み取ろう。 【共通農業政策】 (例) EU 域外からの輸入農産物にも対抗できるようにするため、個々の農家や地域に補助金を出して保護する政策。 理由 (例) 補助金がEUの財政を圧迫するようになってきた。  「EU 予算の内訳」 共通農業政策とは、どのような政策だろうか。 共通農業政策の見直しが求められている理由を考えてみよう。		小麦	いも類	野菜類	果実類	肉類	牛乳製品	イギリス	82	75	38	5	69	81	オランダ	27	221	284	22	176	224	ドイツ	152	117	40	25	114	123	フランス	190	116	73	57	98	123	イタリア	66	45	141	106	79	68	スペイン	72	60	183	135	125	76	アメリカ合衆国	170	96	90	74	116	104	日本	12	73	77	38	51	59	○ 写真や動画を用いてヨーロッパの混合農業を理解させる。 ○ 食料自給率が日本より高いことを読み取らせ、その理由を日本の農業の課題と比較しながら考察させる。 ◆ ユーロッパでは国によって得意な農作物が異なることに気付かせる。 ○ 学習プリントを活用し、ヨーロッパの共通農業政策の目的と弊害について理解させる。 ◆ EU の予算の 4 割が共通農業政策に使われていることに気付かせる。 ◆ 共通農業政策により、経済的に不安定な国が保護される一方で、EU の財政が圧迫されていることに気付かせる。
		小麦	いも類	野菜類	果実類	肉類	牛乳製品																																																										
イギリス	82	75	38	5	69	81																																																											
オランダ	27	221	284	22	176	224																																																											
ドイツ	152	117	40	25	114	123																																																											
フランス	190	116	73	57	98	123																																																											
イタリア	66	45	141	106	79	68																																																											
スペイン	72	60	183	135	125	76																																																											
アメリカ合衆国	170	96	90	74	116	104																																																											
日本	12	73	77	38	51	59																																																											
整理	5. 本時のまとめをする。 EU はヨーロッパの農業を支援するために、どのような取り組みを行っているのか、説明しよう。 「学習後の振り返り」の欄に記入してみよう。 6. 学習課題への振り返りの活動を行う。	◆ 農家や地域に補助金を出して保護したり、質の高い農産物を生産する農家や地域を支援したりする取り組みを説明できたか確認する。 ○ 「学習後の振り返り」へ記入させ、「学習前の予想」と比較させる。																																																															